

シンガポール国際水週間2014

「持続可能」テーマに

日本の展示も賑わう



開催国以外では最大のスペースを誇り多くの人が訪れた日本パビリオン【下】谷津環境事務次官(前列右から3人目)の姿も

「シンガポール国際水週間(SIWW)2014」が1日から5日まで、「持続可能で住みやすい

都市のための水環境ソリューション」を主要テーマとしてシンガポールで開催された。今回で6回目を迎えたアジア最大のこのSIWW国際会議では、世界各地の政策関係者や水問題の専門家、水に関する各国の関係機関のトップが一堂に会し、各国の基調報告、ワークショップ、ビジネスフォーラムを通じ、水に関する諸問題が幅広く討議された。事務局の発表ではこの期間中、世界140カ国から約2万人が参加、展示は約850ブースの規模となった。

初日、「SIWW」世界都市サミット「グリーン環境サミット」と大規模国際イベントの合同で行われた開会式でシンガポールのリー・シェンロン首相が約3000人の参加者を前に基調講演を行った。専門家会議では、技術に関するホットイシューとして、次世代のバイオテクノロジーとして特に嫌気性処理にス

講演するシンロン首相

OPENING CEREMO

Guest Of Honour
Prime Minister
Lee Hsien Loong
1 June 2014



シンロン首相講演要旨

SIWWは世界都市サミット、グリーン環境サミットと併設して開催され、年々規模が拡大している。2年ぶりで開催されたSIWWで皆様と再会できたことは大変うれしく思う。2年前と比べ世界の都市化は急速

次世代にクリーンな環境を

に進み、この2年間で1億人以上の人々が都市に移動している。これはシンガポールの人口の20倍に近い数値である。近い将来人類の70%は都市に住むと予想されており、反面多くの課題を抱えている。都市環境の悪化、地球温暖化による危機的な水災害や水不足に直面している。しかし人々は常にハイレベルな生活環境を要求している。

シンガポールは「持続可能な都市づくり」を最善を尽くしている。次世代にクリーンな環境を継続するため、特に水とエネルギーに注目を期待している。

SIWWの機会をフルに活用し、アイデアの交換、オープンなディスカッションを通じ皆様と「持続可能な都市づくり」を目指し、一緒に活動できることを期待している。

ボットが当てられ、膜を使った嫌気性処理(MBR)、脱窒素処理が取り上げられた。また、強靱な都市づくりとして都市の洪水対策、産業用水と排水処理として特に工業団地の総合的な水循環と処理、革新的な水再生方法、大災害時における水の供給なども取り上げられた。

EXPO)には国別のパビリオンが設けられ、16カ国(シンガポール、オーストラリア、ベルギー、米国、フランス、カナダ、デンマーク、イスラエル、中国、ドイツ、英国、韓国、オランダ、スイス、台湾、日本)が展示を競った。中でも、日本パビリオンは開催国を除き最大のスペースを設けた。

日本貿易振興機構(JETRO)が取りまとめた日本パビリオンでは、Wateringメタウォーター▽JFEエンジニアリング▽積水化学工業▽栗田工業▽西島製作所▽住友電工▽東芝▽中外炉など、また自治体関係では福岡市▽水みらい広島▽神戸市▽中部水フォーラム▽東京都水道局などが展示した。▽日立製作所▽東レ

▽日東電工▽明電舎▽三菱電機などは単独で大きなブースを構えた。技術セッションは4日まで開催され、4000人以上の専門家が発表や意見交換をする盛り上がりを見せた。

(関連記事6面)
【取材協力】グローバルウォーター・ジャパン代表 吉村和就氏(国連環境アゴバイザー)